

## 家庭に普及するICTメディアの利用実態

——パソコン・携帯電話に対する関わり方や意識の違いから見えてくるもの——

朝永昌孝 [Benesse教育研究開発センター研究員]

パソコンや携帯電話の普及が急速に進んでいる。世の中の動きに呼応して、今や子どもの生活にもこれらのメディアが急速に浸透している。

では、子どもがパソコンや携帯電話を利用することについて、保護者はどのように考えているのか。

また、子ども自身はどのように考えて使っているのか。

総務省からの委託を受け、

Benesse教育研究開発センターが実施した調査を基に、

保護者と子どもの意識を見てみよう。

### ● 調査概要

#### 保護者調査

- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 調査対象：小学校1年生から中学校3年生の子どもを持つ保護者1800名
- ・ 調査時期：2006年3月

#### 子ども調査

- ・ 調査方法：グループインタビュー（ヒアリング調査）
- ・ 調査対象：①日常的に携帯電話を利用  
②自宅にパソコンがあり、日常的に利用以上の条件に合う、小学校5・6年生、中学校1～3年生  
1グループ4人×4グループの合計16名に実施
- ・ 調査時期：2006年3月

### パソコンや携帯電話の急速な普及が進む現代社会

パソコンや携帯電話といった、いわゆる「ICTメディア」\*1が急速に普及している。総務省が実施している「通信利用動向調査」によれば、2004年末には、およそ8割の世帯にパソコンが普及し、9割の世帯には携帯電話が普及している（総務省「平成16年通信利用動向調査報告書世帯編」）。世帯別のパソコン普及率は、1997年末には28.8%と3割に満たず、また携帯電話についても、同年末には46.0%と半数に満たなかったことを考えると、いかに急激な増加を示しているかが分かる。

このような社会環境の変化は、大人の生活にとどまらず、子どもの生活にも影響を及ぼす。これらのICTメディアは、新たなコミュニケーションや情報収集の手段として、子どもにも恩恵をもたらす一方で、ICTメディアに関わる事件の発生や依存の問題など、危険性をはらむ存在ともなっている。

### 調査の概要について

こうした社会環境を背景にして、Benesse教育研究開発センターでは、2005年度に総務省からの委託を受け、「ICTメディアに係る子どもの利用実態及び利用環境等に関する国内外調査研

究」を行った。この研究では、子どものICTメディアに関わる状況を多面的に把握するため、複数の手法を組み合わせ考察を行った。

本稿では、ICTメディアと子どもの関わりに関する保護者の意識について、インターネットを通じて保護者に実施した調査（以下、保護者調査）の結果を見ていく。その一方で、子ども自身の意識や実態も捉えておく必要がある。そこで、小・中学生に実施したヒアリング調査（以下、子ども調査）の結果も併せて見ていこう。両調査の概要は上記の通りである。

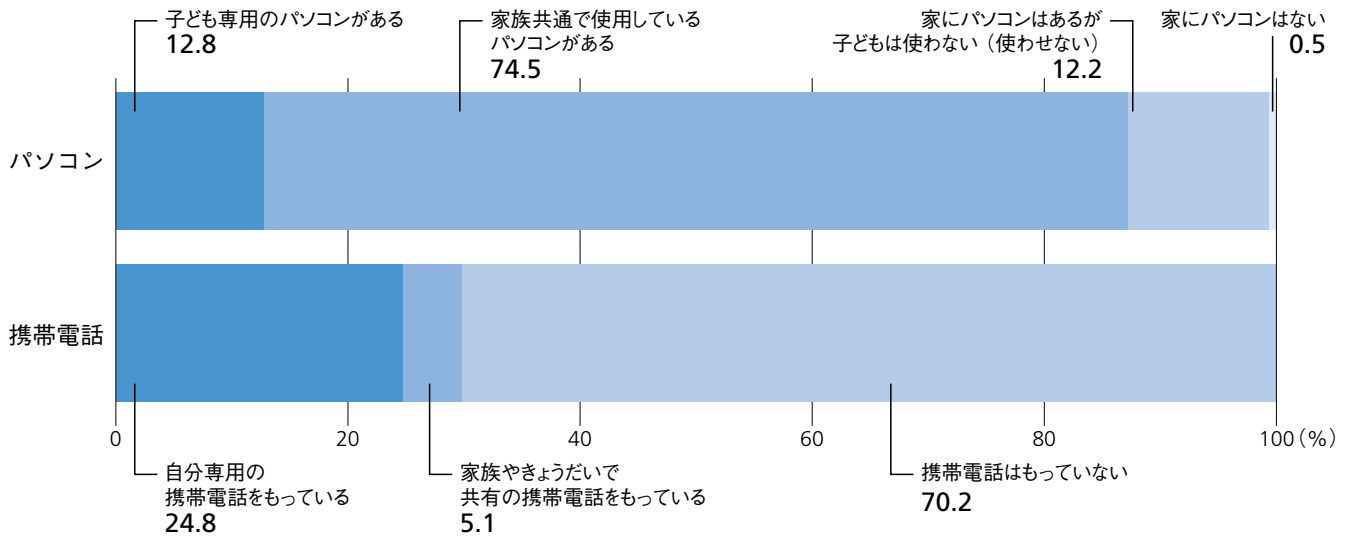
ここでは、類似する機能も独自の機能も持つ、パソコンと携帯電話の相違に注目したい。以下では、二つの調査の結果から、パソコンや携帯電話について、保護者の意識と子どもの捉え方の異同を見ることにする。

### 子どもたちのパソコンや携帯電話の基本的な利用実態

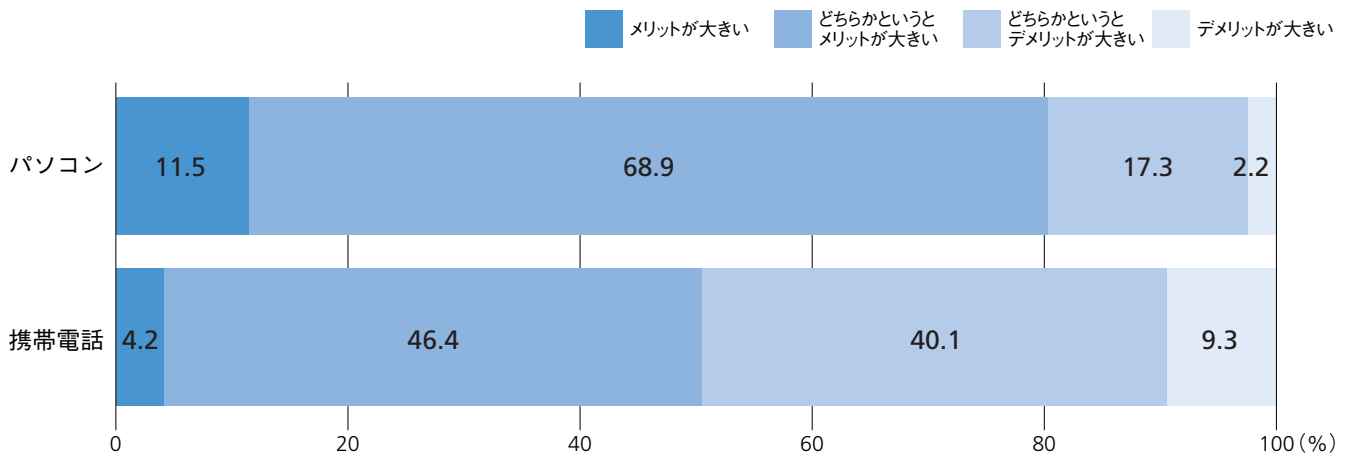
はじめに、子どものパソコンや携帯電話の基本的な利用状況を押さえておく(図表1)。保護者調査の結果によれば、「子ども専用」と「家族と共用」を合わせて87.3%の子どもが、家でパソコンを利用している。一方、携帯電話を所持しているのは、「自分専用」と「家族と共用」を合わせて29.9%の子どもである。

パソコンや携帯電話の利用率は、学年が上がるにつれて高ま

図表 [1] パソコンと携帯電話の利用状況



図表 [2] パソコンと携帯電話のメリット、デメリット (保護者対象)



る。特に小学校高学年から中学生にかけて上昇する。パソコンについては、小学校1年生では74.5% (「子ども専用」と「家族と共用」の合計、以下同) だが、徐々に増加して小学校6年生で9割を超える。携帯電話は、小学校低学年では1割程度 (「子ども専用」と「家族と共用」の合計、以下同) だが、小学校6年生から中学生にかけて増加する (小学校6年生: 28.5% → 中学校1年生: 48.0% → 中学校2年生: 56.0% → 中学校3年生: 69.0%)。こうした結果は、他の調査の結果を見ても同様である\*2。

ただし、本調査はインターネットで行った調査であるため、家庭でのパソコン所有率自体がほぼ100%と、一般的な実態よりも高い\*3。そのため、回答者は、パソコン (や携帯電話) に対して、比較的肯定的な意識を持っている可能性があることには十分に留意しておきたい。

**保護者から見て、パソコンや携帯電話は、子どもへのメリットとデメリット、どちらが大きいのか？**

では、保護者は子どものパソコンや携帯電話の利用をどのように考えているのだろうか。まず大きく傾向をつかんでおこう。これらのメディアについて、総合的にメリットが大きいと思うか、またはデメリットが大きいと思うかを尋ねた結果が、図表2である。

\*1 ICTとは、Information and Communication Technologyの略である。  
 \*2 携帯電話の所持率については、例えば、Benesse教育研究開発センター「第1回子ども生活実態基本調査」(2004年)の結果を参照のこと。これによれば、小4生から小6生までは2割前後だが、中1生で35.0%、中2生で46.4%、中3生で54.0%となり、高校生になると9割を超える。  
 \*3 例えば、前述の「平成16年通信利用動向調査報告書世帯編」(総務省)では、パソコンの世帯普及率は8割程度である。

これによれば、パソコンについては、「メリットが大きい」(「メリットが大きい」と「どちらかというメリットが大きい」の合計、以下同)という回答が8割を超えており、プラス評価をしている保護者が多い\*4。

一方、携帯電話について見ると、「メリットが大きい」と「デメリットが大きい」(「デメリットが大きい」と「どちらかというデメリットが大きい」の合計、以下同)の比率は拮抗しており、保護者の評価は半々である。

このように保護者の意識は、パソコンに対してと携帯電話に対してとは、大きく異なっていることが分かる。

### 保護者から見た、具体的なメリットやデメリットとは？

では、どのような点に、メリットやデメリットを感じているのだろうか。図表3は、パソコンについて、保護者がどのようなことを感じているか、さらに細かく尋ねた結果である。情報収集や学習への役立ち感が筆頭にきており、次いで有害情報への懸念が続いている。また、自由記述方式で尋ねた結果でも、メリットとしては「自分で調べ物をするようになった」「勉強に役立つ」といった声が多く、デメリットとしては「視力が悪くなる」「使いすぎ」や、有害情報やウイルスなどの「トラブル」が挙げられていた。

一方、携帯電話についてはどうか。図表4を見ると分かるように、親子での連絡や危険防止に役立つという回答がある一方で、有害情報や犯罪に対する心配、子どもの友人関係が見えにくくなるという回答も6~7割程度となっている。また、自由記述の回答でも、メリットとしては「連絡のとりやすさ」を挙げる声が多く、デメリットとしては「料金が高い」「使いすぎ」といった声が挙げられていた。

### 子どもの側から見た、パソコンと携帯電話への関わり

今度は、子どもの側から、パソコンや携帯電話の捉え方を見てみよう。ただし、「子ども調査」は、パソコンや携帯電話を利用している子どもへの調査であるため、必ずしもすべての子どもの傾向を表すものではないことを付言しておく。

まず、パソコンについて見てみると、「子ども調査」でもメリ

ットとしては「インターネットで最新の情報が分かる」(小学校5年生男子)、「いろんな情報が、正確さはともかく早く大量に手に入る」(中学校3年生女子)といった情報収集手段としての役割が第一に挙げられる。これは保護者の認識と共通している。

使用の契機を見ると「ゲームだけなら幼稚園から。機械系が好き。パソコンは前からあった」(小学校6年生女子)、「小さいころからパソコンがあって日常的な存在だった。小学校3年生の時調べ学習を学校で調べきれなかった分を、『そうだ家にも同じのがあるじゃん』って、調べた」(中学校1年生女子)といった声から分かるように、パソコンがかなり身近な存在であることがうかがえる。こうした声は、小学生でも中学生でもあまり違いが見られない。

次に携帯電話について。「子ども調査」では、小学生と中学生の違いが特徴的だった。小学生の主たる用途を見ると「携帯は塾のお迎え連絡用。友だちは同じマンションに住んでいるから直接行った方が速い」(小学校6年生男子)というように、家族との連絡用である。こうした使い方は、保護者が挙げる主たるメリットと共通している。また、友人関係と携帯電話との関連性についても尋ねたが、小学生からは「携帯電話がなくなったとしても」あまり変わらない。大事なことは携帯で話していないから」(小学校6年生女子)といった声も聞かれた。

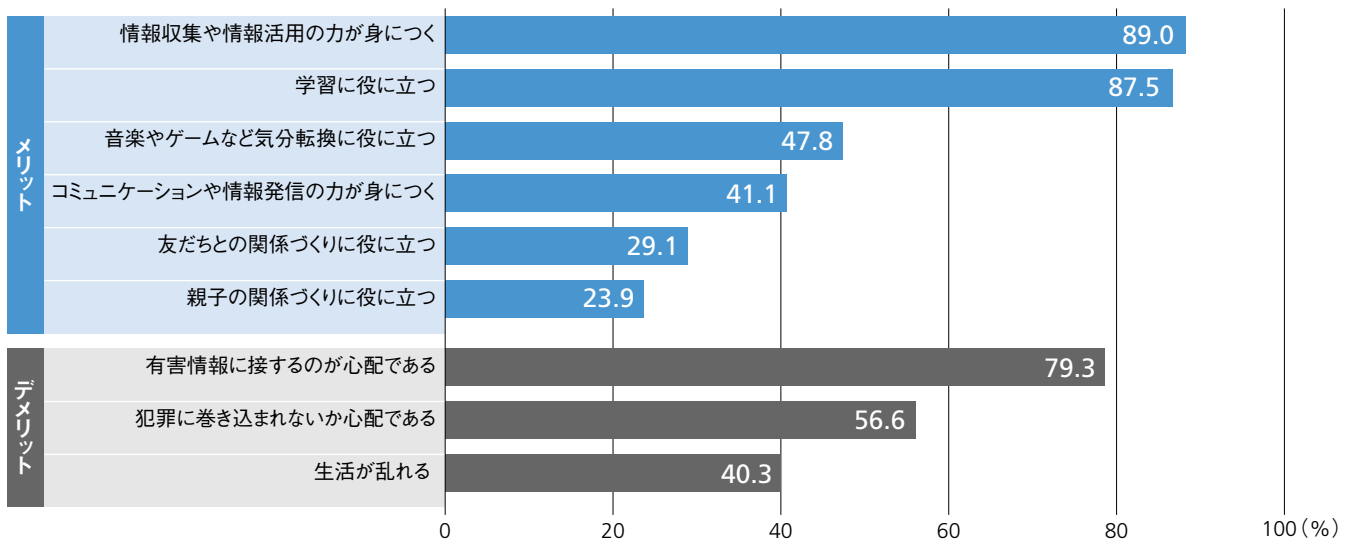
しかし、中学生では状況は異なる。「クラスの4分の3以上の人が持っていて、ないとあるとでは世界が違う。欲しいって親に頼んだら買ってくれた」(中学校1年生男子)、「先輩との連絡網代わり。電話だと不在時に後からの連絡も大変なので、メールの方がいい」(中学校3年生女子)といったように、家族以外の友人とのコミュニケーションにおける重要性が高まるようだ。「携帯持っていない人は会話に入れない」(中学校1年生女子、中学校3年生女子)といった声すら聞かれる。また、「好きな人の話など、家の電話で親に聞かれたくないので、携帯を使えてよかった」(中学校1年生女子)というように、プライベートなツールとして位置付けられているようだ。

### 保護者と子どもの意識の相違とは？

保護者と子どもの相違を改めて確認しよう。パソコンについては、多くの保護者が情報収集や学習に役立つと考えており、メリットが大きいと感じている。そして子どもにとっても、情報

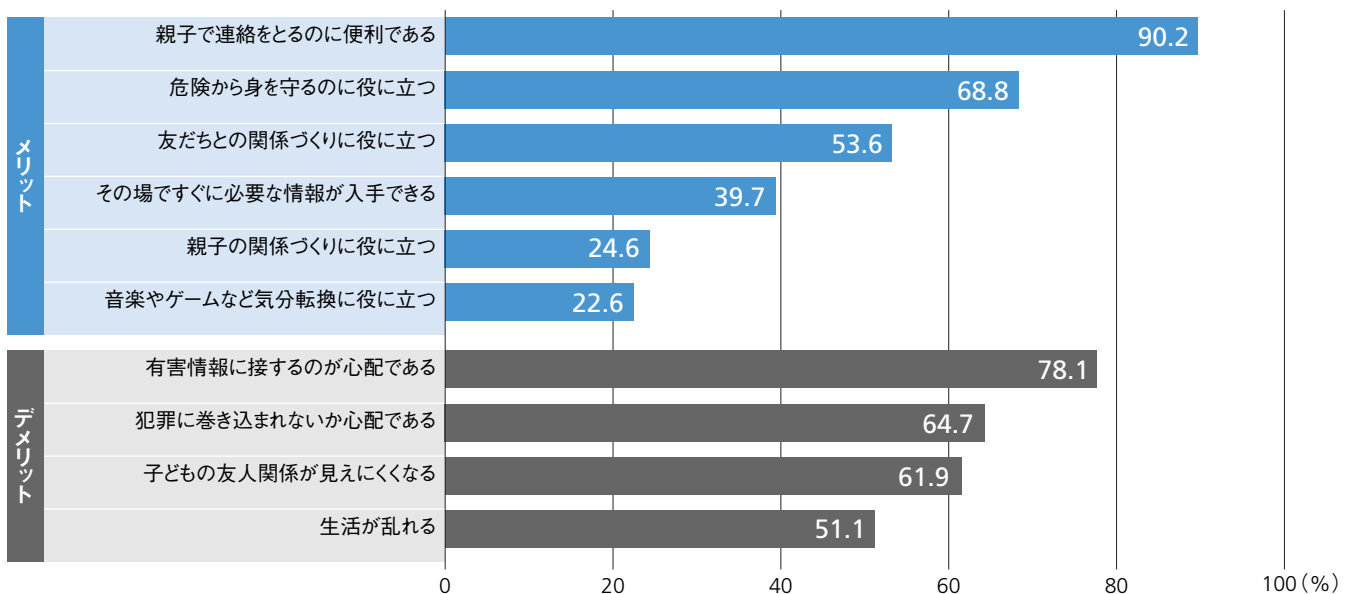
図表 [3] パソコンの利用についての考え（保護者対象）

「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計（％）



図表 [4] 携帯電話の利用についての考え（保護者対象）

「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計（％）



収集や学習への役立ち感は共有されている\*5。

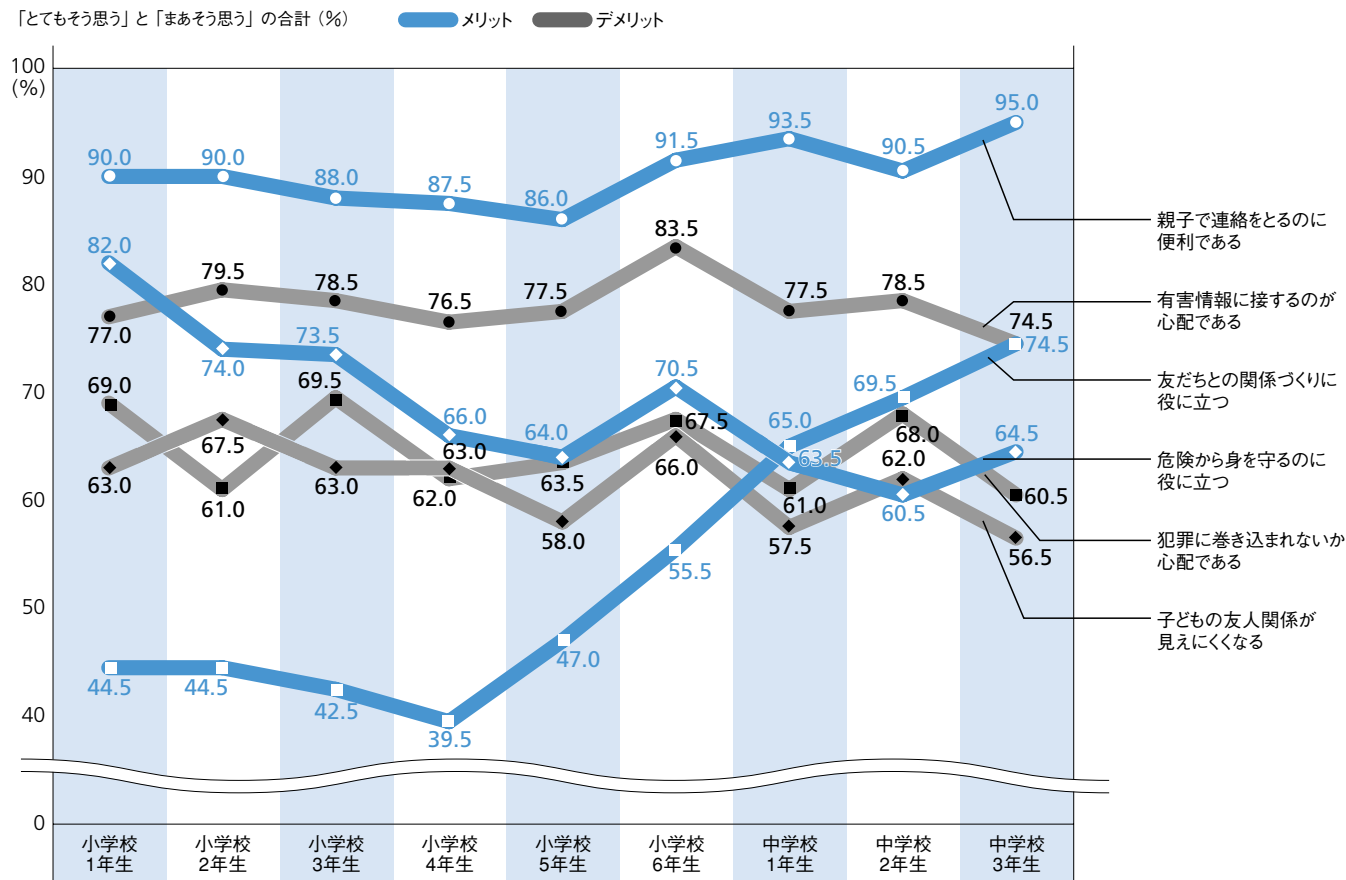
これに対して、携帯電話は必ずしもそうとはいきれない。小学生の時は保護者も子どもも、家族との連絡用として役立つという意識を共通に持っている。しかし中学生段階では、携帯電話は子どもにとって「個人的・プライベートなもの」になり、その主たるメリットは、友人とのコミュニケーション・ツールという役割へと移行する\*6。

保護者の意識にも、こうした変化はある程度反映されていることが見て取れる。先に見た携帯電話の利用に関する考えにつ

いて、さらに子どもの学年別に見ると、「友だちとの関係づくりに役に立つ」という保護者の回答は、小学生の保護者だと4～5割程度（「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計、以下同）

\*4 前述のように、インターネットで行った調査での回答という特性は念頭に置いておく必要がある。  
 \*5 子どもからは、インターネットでの情報の信頼性や危険性を意識する声も聞かれた。有害情報への接触について心配する保護者は多いが、子どももこうした点にはある程度の警戒心を持っているようだ。  
 \*6 デメリットについて、子どもからは、使いすぎに対する危惧や、チェーンメールの経験や危惧などは語られたが、有害サイトへの接触についてはあまり語られなかった。

図表 [5] 携帯電話の利用についての考え (学年別/保護者対象)



「携帯電話の利用についての考え」(10項目)のうち、メリットの上位3項目、デメリットの上位3項目のみを抜粋

だが、中学生の保護者になると7割前後にもなる(図表5)。また、図表は省略したが、子どもの携帯電話利用は、総合的に見て「メリットが大きい」と考える保護者も、小学生の保護者だと4割台だが、中学生になると5割を超え、中3生の保護者では73.0%にもなる。

しかし他方で、「子どもの友人関係が見えにくくなる」といった携帯電話のデメリットについては、学年を問わず、6割前後でほぼ一定している(図表5)。子どもの成長に応じて有用性は感じるようになる一方、携帯電話の子どもにとっての中心的な用途が「個人的・プライベートなもの」になるにしたがって、保護者の心配・不安感も現実のものとなってくるといえそうだ。

## おわりに

これまで見てきたように、パソコンと携帯電話とは、子どもの使い方が変化していく程度が異なる。携帯電話は「個人

的・プライベートな」ツールという性質を持っており、保護者から見れば、子どもの利用状況が不可視になる可能性をはらむ。こうした違いが、保護者のパソコンと携帯電話に対する意識の違いとして反映されていることが考えられる。

また、パソコンはかなり普及したメディアであり、使い方についても一定の共通認識はできている。それに対して、携帯電話については、さまざまな機能が急速に付加されていく流れの中で、世の中全体としても、子どもの中でも、まだまだ十分には使い方が定まっていないだろう。逆にいえば、未発見の可能性を秘めているということにもなるが、保護者にとってはこういった不安定さが不安感の一因であるのかもしれない。

今後、携帯電話について、さらに子どもへの普及は進んでいくのか。そして、保護者と子どもの意識ギャップは解消されていくのか、それとも拡大していくのか。パソコンと携帯電話の相違を念頭に置きながら、注目していきたい点である。

